

## 令和3年度 高千穂町立高千穂小学校 評価書(学校評議員コメント)

A : 十分達成 (80%以上)

B : おおむね達成 (70%以上~80%未満)

C : やや不十分 (60%以上~70%未満)

D : 達成不十分 (60%未満)

## 重点目標①【更なる学力向上】

評価指標	評価項目・数値目標	自己評価		結果の考察 改善策等	評 価	学校関係者評議 員コメント
		指標別	総合			
1 児童の学習意欲の向上と、わかる・できる喜び（基礎・基本の定着と特別な支援）を実感できる授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一部教科担任制によって専門的・計画的で効果的な学習を行っている。</li> <li>○ <b>タブレットPCを活用し、学力向上を図るとともに、児童が主体的・対話的で深い学びのある授業を行っている。</b></li> <li>○ 全ての児童が理解できるよう、指導方法や環境の改善を図っている。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高学年を中心に、試行的に一部教科担任制を実施してきた。また、専科指導等も充実し、効果的な学習を行うことができたことからも、結果の改善につながったと考えらえる。</li> <li>○ タブレットPCが全児童に配付されたことにより、主体的な学習や個に応じた指導が推進されることとなった。</li> <li>○ 特別支援教育的な配慮をあらゆる場面で行ってきたため、困りを感じる児童に寄り添う指導方法の改善が図られた。保護者との連携も密に行ってきたため、評価につながったと考えられる。</li> </ul>	A A A A A ↓ A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PCの授業への導入などにより、先生方への一層の負担がかかってきていると思われるが、様々な授業方法に関する工夫努力により効果が現れてきていると思われる。それは、保護者へのアンケート結果からも理解できる。</li> <li>○ 教科担任制を期待している。また、タブレットを児童一人一人に配付された事で先生方の指導も良くなり、やり易くなったと思う。今後に大いに期待する。</li> <li>○ PC活用は自分の理解度に応じた活用が期待できる。少人数指導の具現化には欠かせないツールであろう。</li> <li>○ タブレットPCを積極的に授業で取り組んでいる中で定額の授業でタブレットPCに入力する際にかな入力、ローマ字入力、タッチペン入力とやっていたが、ローマ字表を見ながら必死に入力している児童がいた。その児童達は入力が終わると嬉しそうな表情を</li> </ul>

2 校内の主題研究における研究授業を通した教師の指導力向上の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究授業もしくは指導法研究 <u>(特に、G I G Aスクール構想によって整えられたシステムの活用等)</u> をグループで行い、課題や改善方法の共有等、授業力の向上に努めている。</li> <li>○ 初期研修者のメンターとして全職員がかかわることで人材育成並びに自身の指導力向上に努めている。</li> <li>○ <u>教職員の資質・能力向上及び業務推進のために、校務文書の電子化・会議の精選等の働き方改革を推進している。</u></li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究主任及びICT担当が中心となり、タブレットPC並びにアプリケーション等の授業活用について、専門的知見を交えながら、授業改善に努めてきた。それを受け、教職員も新たな学習づくりへの挑戦につながったため、教職員の資質向上につながった。</li> <li>○ 初期研修については、担当及び学年等で関わり、指導力及び心理的安全性を担保しながら育成に努めることができた。</li> <li>○ 教職員の意見を尊重しつつ、心理的特性を考慮した提案を行うことで、会議を精選したり、効率の良い働き方を実践したりすることができた。</li> </ul>	<p>していた。分か る、できることを 実感したのではな いかと思う。他の 児童も興味をも ち、できる喜びを 感じてもらい学力 向上に繋げてもら いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一部強か担任制により専門的指導が行われたとのことで学力向上に効果的な改善がなされた。</li> <li>全児童がタブレットPCを利用することで個々に合わせた指導効果が期待できる。</li> <li>支援の必要な児童、保護者に常に寄り添うことにより声があげやすい環境づくりは評価できる。</li> </ul>	<p>○ タブレットPC並びに多様なアプリケーションを用いた授業の導入は、反面、教師への負担増にもなつてくる。この点に関しては、今後も大いに論議してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員の方々のそれぞれの努力には、敬服している。自身の指導力向上に益々力を注いでもらいたい。</li> <li>○ 学校の一番の無駄は、会議である。余った時間を子供に接するじかんに充てることで大きな教育効果が期待できる。五感を使った教育の第一歩と思う。</li> <li>○ 教員のタブレッ</li> </ul>	

トPCを活用した授業は新たな取組で苦労することが多いと思うが各学年児童にあった授業内容を考え、分かれやすく実施できていたと思う。今後もいろいろと挑戦していってもらいたい。

○ PC及びアプリケーションの活用、改善により全職員の質の向上も期待できる。

研修者に対し全職員がメンターとして関わることで相互の向上が期待できる環境づくりがされていると感じます。

働き方の改革の実践により教職員の心理的、精神的安全性も保たれることができていると思われます。

## 重点目標②【心の教育の更なる充実】

評価指標	評価項目・数値目標	自己評価		結果の考察 改善策等	評 価	学校関係者評議 員コメント
		指標別	総合			
1 人権教育や特別支援教育の充実による友達を思いやる温かい人間関係の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎月いじめに関するアンケートを実施し、未然防止や<u>不安に対し て心の支えとなるよう な声掛けをする</u>相談活動に取り組んでいる。</li> <li>○ 特別支援教育コーディネーターを中心とした全職員による児童理解と<u>研修、支援体制の充実</u>に努めている。</li> <li>○ <u>自分や他の人々の思 いや痛みを分かる人権 教育を推進し、コロナ 差別をしない、させな い、許さない児童の育 成を図る。</u></li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒指導連絡会やサポート連絡会、さらにはケース会等を通じて児童の共通理解を図ってきた。また、心理的安全性を考慮した声掛けを教職員が意識的に行うことができ、児童の精神的余裕が生まれてきていることも評価向上の要因と考えられる。</li> <li>○ 特別支援教育に関する研修や情報共有等を綿密に図ることができた。指導体制についても組織的に行うことができていることが、評価につながっていると考えられる。</li> <li>○ 新型コロナウィルス感染が発生したが、生徒指導部人権教育担当並びに学年担当によるコロナ差別を許さない指導を実施したため、当該児童も普段通りの学校生活を続けることができている。</li> </ul>	A A A A A ↓ A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ この数年のコロナ禍によって生じたコロナ差別に関しては先生方のご指導により、本学では問題が生じないとのことで素晴らしい。しかし、保護者へのアンケート結果からは、まだ一部の児童では人権とか性の問題について理解が不十分だと声もあるので、今後も機会がある毎にこれらのもん第については児童との対話が必要だと思われる。</li> <li>○ 児童の不安事に対して学校側の声掛け相談活動は、大変重要な事と考えていたが取り組まれている事に感謝している。より良い人間関係をつくれる児童の育成を望む。</li> <li>○ 子供に自信を持たせることが差別解消につながる。</li> <li>○ 相手を思いやる気持は、生活していく中でとても大切な感情だと思う。早い時期から人の気持ちを分かろうとする人権教育の推進や毎月のアンケート実施は有効だと思う。</li> <li>○ アンケートによる現状確認、未然防止が継続的に実施されていると評価できる。</li> </ul> <p>支援教育に対し</p>

2 基本的な生活習慣の徹底と、道徳科の時間及び読書等を通じた心豊かな活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高千穂小学校生活のしおりを基に、適切な挨拶や廊下歩行等の基本的な生活習慣の徹底を全職員で行っている。</li> <li>○ 読書記帳システム等の活用や<u>児童が主体的に取り組める読書活動</u>の推進を図っている。</li> <li>○ 道徳科を中心に公徳心・生命尊重に関する内容を重点に指導している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶・廊下歩行については教職員間ではまだ課題があると考えている。しかし、その対策のために生徒指導部直轄の計画委員会が中心となり、様々な企画を打ち出し、実践につなげている。児童自身が主体的に改善に取り組み、意識の変化が見られる。</li> <li>○ 本校の司書教諭が読書活動の推進のための企画をタイミングよく行ってきた。そのため、読書量も増えてきた。しかも図書委員会が工夫を凝らして企画を練ったものも提案されており、読書活動が活発化になった。</li> <li>○ 公徳心・生命尊重を重視した児童が育ちつつあり、道徳教育の普段の効果が表れている。</li> </ul>	<p>研修や情報が共有されて組織的な取組は大きく評価できる。</p> <p>現状に合わせたコロナ差別をささない指導の取組がなされ、より子供たちの心身の安全性が守られていると感じられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町中で児童に会うと、いおつも「おはようございます」「こんにちは」などの挨拶が返ってきて、当方は清々しい気分になってくる。このような習慣は、都会では見かけられない。これからもこのような習慣は続けてほしいものである。</li> <li>○ 児童のそれぞれの意識が変化していることが見られるという事自体、嬉しく思っている。読書活動も良くなっているものを感じている。</li> <li>○ 読書の入口は漫画だと思う。現在は学習漫画が多く発行されているので、一部の保護者の中には漫画をタブー視する傾向もあるが、読書入門として勧めてほしい。</li> <li>○ 挨拶については、多くの児童ができるていると思うが中には、声が小さかったり、できない児童も見受けられる。読書通帳システムなどを活用して、児童が主</li> </ul>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>↓</p> <p>A</p>

体的に即書活動を進めいくことは、大変良い事だと思う。その効果により読書量が増加していることも評価できる。

○ あいさつについては、伝統的指導とも感じられるほど、町民、観光客の方からもお褒めの声を聞く機会が多くあります。

読書通帳システムの活用により児童がより楽しみながら多くの本と親しめる取組がなされていると思う。

### 重点目標③【体力の向上と食育・健康教育の推進】

評価指標	評価項目・数値目標	自己評価		結果の考察 改善策等	評 価	学校関係者評議 員コメント
		指標別	総合			
1 体力向上プランに基づいた体育的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 握力、ボール投げなどの記録向上のため、体育の授業の充実に努めている。</li> <li>○ 外遊びを推奨し、日常的に体力を高めようとする意欲の向上を図っている。</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の体力向上については成長を認めるものの、コロナ禍における運動や会話の制限など、児童にとって障壁となる状況を鑑みて、評価が下がってきてると考えられる。しかし、おおむね、体力向上の目標は達成おり、運動会等の体育行事も実施することができた。(ただし、スキー教室は蔓延防止措置のため中止を余儀なくされた。)</li> </ul>	B B A A B ↓ B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校の時代は、子供たちにとっては最も活動期の時代であるが故に、この長引くコロナ禍は子供たちの成長に暗い影を落としている。しかし、学校や教職員の創意工夫により、その弊害が最小限に抑えられていると思う。今後もできるだけ、子供たちの成長パワーを少しでも多く引き出せるような工夫をお願いしたい。</li> <li>○ コロナ禍でなかなか計画的には行かないと思うが良く努力されている。体力向上プランに近い活動が早く出来るようになる日を願う。</li> <li>○ コロナウイルス感染症の影響により、児童達の活動が制限される中、運動会や持久走大会の実施など職員の対応も苦労したと思うが児童たちの元気な姿が見ることができたのは良かった。</li> <li>○ コロナ禍において学校行事やスポーツ少年団等の活動制限が続く中での体力向上、維持は厳しいと思われるが、健全な成長のため継続的な取組を評価、期待します。</li> </ul>

				新しい生活様式による流行性の感染症の予防、健康維持ができるていると思われる。
2 自他の生命を大事にする健康や性に関する教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しい生活様式を考慮し、保護者のニーズや児童の課題に応じた指導・支援を行い、<b>自他の生命に関する指導を充実している。</b></li> <li>○ 学校保健委員会を開催し、保護者と連携した取り組みを図っている。</li> <li>○ 養護教諭による健康や性に関する指導を、各学級1回実施している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しい生活様式は児童に定着している。そのため手洗い、うがいや黙食等のやるべきことを徹底して指導してきた。児童も自他の生命尊重を考えて行動することができるようになっている。</li> <li>○ 校内の消毒を健康推進部が中心となって毎日念入りに行なっている。そのことが、クラスター発生を抑えることができた要因にもつながっていると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しい生活様式が定着していき、うがい、手洗いなどを徹底していることでコロナウイルス感染症の拡大を最小限に抑えられていると思う。今後も厳しい状況が続くと思うが引き続き取り組んでもらいたい。</li> </ul>
3 望ましい食育教育推進による健康な生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栄養教諭による食に関する指導を各学級年1回実施するとともに、学級担任以外の職員や支援員が一緒に給食を食べ、望ましい食習慣の形成を図っている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食に関する指導も安全を考慮しながら、ポスター掲示や学級担任による指導を充実させ、コロナ禍における状況でも推進することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食育、この言葉を聞いて久しいが本当に大切な事、健康な体を作っていくためにも必要な食生活を身に付けてほしい。指導に期待している。</li> <li>○ 学級菜園の活用を図ってほしい。</li> <li>○ 食育もコロナ禍で以前のような対応が難しい中、学級担任以外の職員にや支援員が児童問いつしょに給食を食べるなど可能な範囲で指導をしているのは評価できる。だが、コロナウイルス感染症の拡大防止のため、黙食を導入していることは、食べる喜びが半減しているようにも思え残念に思う。</li> <li>○ 望ましい食習慣の形成が継続的に図られていると評価する。</li> </ul>

#### 重点目標④【家庭や地域との連携】

評価指標	評価項目・数値目標	自己評価		結果の考察 改善策等	評 価	学校関係者評議 員コメント
		指標別	総合			
1 積極的な情報発信・情報共有等による社会に開かれた教育課程の実施	○ 報道各社への投稿、マチコミによる情報発信、地域に関する授業を、協力・理解を得て実施している。	A		○ ホームページの更新を充実してきたため、訪問者も倍増させることができた。また、地域の方との交流もコロナ禍においても衛生面、安全面を配慮しながら実施することができた。	A A A A A ↓ A	○ インターネット等を活用した保護者への情報発信や相互のコミュニケーションなどは積極的に行われております。 ○ コロナ禍の中での交流活動を良くやられたと思う。 ○ マチコミを活用しての保護者への情報発信は、早い時期に正確に情報を共有できて良いと思う。また、地域の方々との交流も引き続き継続してもらいたい。 ○ ホームページの充実、マチコミによる情報発信共有が継続できている。
2 地域人材の積極的な活用や幼稚園・保育園等及び中学校との連携による、つながりのある教育の推進	○ 新しい生活様式に対応しながら、地域人材と協力してふるさと教育 <u>及びキャリア教育</u> を推進している。 ○ 町福祉保険課・町教育委員会等とも連携を図りながら幼保連携の協議会を開催し、共通理解を図っている。	A		○ キャリアパスポートを実施しているが、効果については今後検討が必要である。しかしながら、地域の皆様や各関係機関の方との連携を通して、ふるさと教育及びキャリア教育を推進することができた。ただし、社会に拓かれた教育課程を目指すには、教職員が今後研修を深める必要は大きいにあるため、次年度以降の研修で考慮していく。	A A A A A ↓ A	○ 現今はコロナ禍で実施困難かと思われるが、地域の人材活用などは今後更に進めて欲しい。 ○ ふるさと教育、及びキャリア教育の推進、中学校、高校と成長するにつれ、大きな実になって残って行くものと考えられる。先生方の指導研修に期待する。 ○ OBの活用、例えば、現在の仕事をすることや生き甲斐などの講話等 ○ 高千穂の地域性を活かしたふるさと教育の推進は、地元高千穂を知るためにも、地域の

						<p>方々かの力を借りながら取り組んでいってもらいたい。</p> <p>○ すぐに効果を確認できるものではありませんので継続的な取組を見守りたい。今後を期待している。</p>
--	--	--	--	--	--	---